

P2-275

ハンドドライヤーの細菌汚染状況について

防衛医科大学校 検査部¹、三菱化学メデイエンス 化学療法研究室²、東邦大学医学部看護学科 感染制御学³

○西園寺 克¹、雑賀 威²、金山 明子²、
長谷川 美幸²、佐藤 弓枝²、池田 文昭²、
小林 寅喆³、辻 明良³

【目的】近年、手洗い後の手指の乾燥に布ロールタオルやペーパータオルに代り、ハンドドライヤーが用いられるようになってきた。しかし、手洗いが不十分であったり、ハンドドライヤーの清掃・管理が不十分な場合などに、汚染した菌がジェット温風により飛沫し人体を汚染させる可能性が考えられる。今回、ハンドドライヤーの菌汚染状況と菌飛沫の可能性について検討を行ったので報告する。

【方法】我々の検査センターの事務棟トイレ4箇所および臨床検体受付作業場所4箇所に設置された形状の異なる2種のハンドドライヤーを対象とした。ハンドドライヤーの水受トレーを綿棒で拭いたものおよびスタンプ培地を用い採取したものを試料とした。また、エアサンプラーを用い、無風時および送風時のハンドドライヤー周囲の空中浮遊菌の検出を行った。

【結果及び考察】事務棟トイレに設置された4台は、外見の汚れは認められなかったが、拭いサンプルで約 10^3 CFU/swab、スタンプ培地で2~62CFU/10cm²の菌が検出された。検体受付作業場所に設置された4台では、外見の汚れの有無に関係なく拭いサンプルで約 10^4 CFU/swab、スタンプ培地で >100 CFU/10cm²と事務棟トイレより多くの菌が検出された。検出菌は*S. aureus* (MSSA)、CNS、*Bacillus* sp.であった。検体受付作業場所設置のハンドドライヤーについて人の顔の位置での空中浮遊菌の検出を行った結果、無風状態で採取した空気からは菌は認められなかったが、送風状態で採取した空気より3~7CFU/100Lの菌が検出された。今回、ハンドドライヤーの水受トレーから高率に菌が検出され、ジェット温風により飛沫することが明らかとなった。

ハンドドライヤーは細菌汚染の温床となる可能性があるため、易感染患者が利用する病院等では注意する必要があると思われる。病院に設置されたハンドドライヤーについても同様の検討を実施し報告する予定である。